



発行所

一般社団法人 全日本木材市場連盟
編集・発行人 小島 隆也
東京都文京区後楽1-7-10
〒112-0004 林友ビル6階
電話 03(3818)2906
FAX 03(3818)2907
毎月1回1日発行
定価 年3,000円
(会員は会費に含まれています。)

■平成30年度林野庁予算概案閣議決定

昨年12月22日、国は平成30年度当初予算案を閣議決定した。林野庁関係予算は対前年度比101.4%の2,997億円、29年度補正予算と30年度当初予算合計では、3,859億円となった。一般公共事業は1,800億円、内森林整備事業費1,203億円、非公共事業は、林業成長産業化総合対策(二部公共)が235億円(内非公共155億円)、合板・製材・集成材国際競争力強化対策(補正予算)400億円(内非公共340億円)及び森林林業人材育成対策(内「緑の人づくり」総合支援対策49億円)が認められた。

重点事項のうち、川下対策中心に紹介すると、以下のとおり。

・林業・木材産業成長産業化促進対策

意欲と能力のある林業経営体の育成、新たな森林管理システムを構築することが、見込まれる地域を中心とした路網整備や高性能林業機械の導入、主伐・再造林の一貫作業、木材関連事業者等が行う施設整備等を支援。

・ICT・人づくりによる成長産業化支援対策

ICT等の先端技術を活用した森林施業の効率化や需給マッチングによる流通コストの削減などスマート林業の構築に向けた取組、施業現場の管理者育成等を支援。

・木材需要の創出・木材産業活性化対策

非住宅分野を中心としたJAS構造材等の利用拡大、中高層建築物等に活用できるCLTの利用促進、公共建築物の木材造化・木質化に向けた普及促進、「一域内エコシステム」の構築促進などによる新たな木材需要の創出、地域材の生産・加工・流通体制づくり、高付加価値木材製品の輸出拡大等を支援。

・合板・製材・集成材国際競争力強化対策

木材製品の国際競争力を強化するため、林業経営を集積・集約化する地域に對して、路網整備や高性能林業機械の導入等を支援するとともに、加工施設の大規模化・高能率化や高付加価値品目への転換、木材製品消費拡大を支援。

・成長産業化支援人材育成対策

効率的な現場作業を主導することのできる現場の管理者を育成するためのキャリアアップ研修等を支援。

・「クリーンウッド」利用推進事業
クリーンウッド法に基づく木材関連業

者の登録が始まったことを踏まえ合法性確認に資する生産国の関連情報の収集や登録促進のための取組を実施。

■平成29年度第3回木材需給会議

林野庁は、平成29年12月19日に「平成29年度第3回木材需給会議」を開催し、「主要木材の需給見通し(平成30年第1四半期及び第2四半期)」を策定・公表した。概要は、以下のとおり。

I 見通しの要点

1. 平成30年第1四半期(1~3月)の需給は、国産材合板用丸太、輸入丸太は、前年同期に比べ増加する一方、国産材製材用丸太は前年同期と同程度で、輸入製材品、合板及び構造用集成材は、前年同期に比べ減少する見通し。

2. 平成30年第2四半期(4~6月)の需給は、国産材合板用丸太、輸入丸太及び合板は、前年同期に比べ増加する一方、国産材製材用丸太、輸入製材品及び構造用集成材は、前年同期に比べ減少する見通し。

II 意見の概要(抄)

1. 一般経済の動向
2017年度の実質GDP成長率は、前年比+1.7%と3年連続プラス成長が見込まれるが、持ち直しペースは緩やか。2018年度も景気の回復続き、実質GDP成長率は前年比+1.1%と4年連続でプラス成長が達成されると思われ、オリンピック・パラリンピックを控

主要木材の入荷量等の概要

(単位:千m, %)
(括弧内は前年比又は前年同期比)

Table with columns for Domestic Roundwood (丸太), Imported Roundwood (輸入丸太), Plywood (合板), and Structural Laminated Wood (構造用集成材) for various periods from 2017 to 2030.

えインフラ建設などの需要盛り上がり、首都圏での再開発案件増加などが景気の押し上げ要因となる。海外経済の回復の継続を受け輸出の増加が続く、設備投資は企業業績拡大を背景に人手不足への対応のための投資、研究開発投資増加が続くと予想、個人消費も底堅さ維持で見込み。

2. 住宅着工見通し

貸家減速の背景としては、相続税対策による需要は根強いと考えられるが、空室率上昇や資金供給面での新規貸出の減少など調整要因がある。住宅着工を取り巻く環境は、超低金利による住宅取得能力の引き上げ効果はあるが、建設資材や労務費等コスト上昇、地政学リスクなど不安材料が漂う中、着工の足取りは徐々に重く、民間の住宅着工予測は、2016年度実績を若干下回る96万戸程との見方が主流。

3. 木質バイオマスの動向

木質バイオマスエネルギー利用動向調査でのエネルギー利用された木材チップ、木質ペレットのうち間伐材・林地残材等に由来する量の推移(丸太換算量)は、平成27年の確定値と平成28年速報値との比較で、木材チップで260万m<sup>3</sup>から420万m<sup>3</sup>と1.6倍となった。FIT制度による稼働木質バイオマス発電所の四半期別燃料使用量のうち、未利用材の燃料利用の第1四半期の対前年度比較の伸び率は7%、第2四半期比較で21%、一般木材では、第1四半期比較で11%、第2四半期比較で29%、今後も新規稼働の増加でさらに伸びると見込んでいる。調達価格等算定委員会での認定状況等の

データによれば、2017年3月末時点の一般木材等を利用したバイオマス発電設備(1,147万kw)FIT認定量の規模別内訳は、件数では、2,000kw未満の間伐材等に由来する未利用材を利用するものが80件強で最も多いが容量は少なく、5万kw〜6万kw未満の一般木材等を利用するものが60件強で、容量も3百万kwを大きく超えていることが問題となった。一般木材・農作物残さの中には、製材端材等が含まれるものの、PKSやパームオイルを燃料とするもの、あるいは輸入木材を燃料とするものが大半となっている。

4. 国産材丸太(製材用)の動向

平成29年第3四半期実績は、前回予測より増加も、前年同期比で減少。第4四半期は、夏季の豪雨による出材量減少は、11月にはほぼ回復、現在ほぼ例年通りの出材が見込まれ、前回予測より増加、平成30年第1四半期及び第2四半期は、特に加工部門で見方が分かれる状況で、前年同期比減少の見通し。外材の価格上昇がみられる中、需要は堅調で国産材も原木の価格上昇がみられたが、製品価格に反映されていない状態。11月までの需要は加工部門で過剰気味との見方も、出材が安定してくれば価格も落ち着くのでは。住宅等の需要は、夏以降、対前年割れが続く、アパートローンを巡る状況等厳しい見方も。

5. 国産材丸太(合板用)の動向

平成29年第3四半期実績は、堅調な住宅着工、国産材合板へのシフト促進、輸入合板減少、フロア合板等への国産合板の需要増大、南洋材合板等の違法伐採等

環境問題、国内合板工場フル稼働、合板工場の生産能力・効率のアップ等により前年同期比で増加。第4四半期は、前年同期比増、平成30年第1四半期は、新設合板工場の稼働準備等、前年同期比増、第2四半期は、前年同期比で増加の見通し。

6. 米材丸太需要動向

平成29年第3四半期実績は、前年同期比減、需給とも旺盛な時期も、今年は北米産地でのファイヤークロージャーが深刻、入荷(供給)量が大幅減少し、需要も減。第4四半期は、前年同期と同程度、異常気象による原木供給減は深刻、産地価格は急上昇中、入荷減少、国内の原木需給はかなりタイト感、平成30年第1四半期は、前年同期比で減、比較的旺盛な需要続く、産地の先高観が続くが、国内製材需要は堅調に推移、原木・製品価格共5〜10%のコスト転嫁の値上げが見込まれ、第2四半期は、産地出材回復、供給やや増、高値であるが落ち着き、需給は比較のバランスが取れて来て、前年同期ほぼ同程度の見通し。

7. 米材製材品需要動向

平成29年第3四半期実績は、入荷少なく、前回予想より減。ファイヤークロージャーの影響もあり、入荷の大幅増は期待できない。第4四半期は、前期入荷減で買いに回った商社もあり、前回予想並み、平成30年第1四半期は、米国西部の山火事は続いており、現地製材工場も丸太手当てに苦労、米国内需要も活発、日本に回す材は無い状態、前期より数量は減、第2四半期は、前年同期比で減、伐採量は回復と思われるが、米国内の活発

な需要は引き続き衰えることなく、日本が買いつらい状況は続く。

8. 米材、欧州材、北洋材、輸入集成材供給動向

(1) 米材丸太供給  
平成29年第3四半期実績は、前年同期比で増。第4四半期は、北米需要強く、輸出向け原木供給のタイト感、前年同期並み、平成30年第1四半期は、天候の不安があるが、強い需要もあり、前年並みの数量予想も、前年同期比減、第2四半期は、前年同期比増加も、冬降雪次第では予想より落ち込む可能性。

(2) 米材製材品供給

平成29年第3四半期実績は、米国市況が好調で前年同期比減、特にへムロックは1〜10月マイナス19.8%。第4四半期は、米国市況の好調影響し前年同期比で減、平成30年第1四半期は、買い難い状況が継続、SPF、ダグラスファー、へムロック共高値オフアアで数量低調、クリスマス休暇の影響もあり前年同期比減、第2四半期は、春需要、天候も回復、前期より入荷は増えるが、前年同期比減少する見通し。

(3) 欧州材製材品供給

平成29年第3四半期実績は、第2四半期の成約まで順調な需要、為替円高進んだが、コンテナ不足が深刻化、前年同期比増、若干船積みもずれ込んだ。第4四半期は、例年夏休みの影響で大幅な入荷減少となるが、本年は遅れていた船積みが増え、10%以上多くなり、第3四半期の交渉が、急激な円安傾向となり採算悪化も、従来並みの数量は成約、例年より多めの入荷、前年同期比増、平成30年第

1 四半期は、買付を抑え、前年同期比減、第4四半期の買付は、特に羽柄材、ホウイトウッドラミナの買付を極力抑えた。第2四半期は、第1四半期の交渉が、世界市場も悪く無く、日本は円安、不需要期、相場値上げ出来る程の力強い需要も見込めず、数量確保・価格交渉難航で買付け数量は、低調、前年同期比減少の見通し。

(4) 北洋材製材品供給

平成29年第3四半期実績は、港頭在庫多く、買い控えて、前年同期比減。第4四半期は、端境期で、例年入荷減となり、前年同期並み、平成30年第1四半期は、出材期で、対日価格が悪く無く、前年同期比増、第2四半期は、前年同期並みの見通し。

(5) 輸入構造用集成材供給

平成29年第3四半期実績は、第2四半期の買付順調、入荷多めで、前年同期比増。第4四半期は、例年夏休みの影響で入荷減、コンテナ不足解消で契約残の船積み進み、大きな落ち込み無く入荷11、12月も入荷は高水位で順調、前年同期比増、平成30年第1四半期は、第4四半期は円安傾向、RW梁需要は旺盛、W柱はスギ管柱の影響で減、年末年始休暇、冬時期生産を考慮し、前年同期比減、第2四半期は、第1四半期の交渉は円安不需要期と悪材料も、買付ストップも出せず、ポーランド工場も出荷が軌道に乗り始め、前期に比べ増加と予測。

9. 南洋材製材品需要

平成29年第3四半期実績は、住宅着工数は前年並み、実需は見られたが、非住宅の動き鈍く、前年同期比減。第4四半

期は、10月出荷44、987㎡、住宅着工は減少傾向、非住宅及びリフォーム物件で動き、前年同期並み、平成30年第1四半期は、年度未竣工の案件多く、住宅・非住宅を含め、底堅い需要があり、前年と大きな実需の差なく、前年同期並み、第2四半期は、住宅着工の大幅増加期待しにくく、オリンピック関連を含め、非住宅の動きはあり、第2四半期での動きは多くなく、前年同期並みの見通し。

10. 国産、輸入合板の需要動向

(1) 国内製造合板需要

平成29年第3四半期実績は、前年同期比増。大手ハウスメーカー及び大手プレカット工場とも比較的旺盛な住宅受注、仕入れ量は増加、中小工務店・ビルダー向け受注残は流通店倉庫への納入進んだ。第4四半期は、前年同期比増、中小工務店・ビルダー向けは、引き合い落ち着き、大手ハウスメーカー、大手プレカット工場は引き続き好調推移、フロリーング用針葉樹合板の需要は、増加傾向継続、針葉樹構造用合板通常品の需給バランスとれているが、特寸や実加工品は特に納期を要する状況、年末のトラック確保の困難な状況も納期遅延の一因、平成30年第1四半期は、前年同期比増、針葉樹構造用合板は、中小工務店・ビルダーは、需要変動をみながらの手当て、大手ハウスメーカー並びに大手プレカット工場は仕入量の水準は維持、全体で、前年水準の住宅着工数予想により需要は維持、第2四半期は、前年同期比増、針葉樹構造用合板需要は、住宅着工需要等は販売状況との睨み、非住宅用は引き続き増加全体で前年水準を上回る、針葉樹合板の

需要用途拡大に対応する生産体制は、4月に三重において月産6千㎡の生産拠点の稼働予定、複合フローリング用合板など広がる需要を支えると期待。

(2) 輸入合板需要

平成29年第3四半期実績は、マレーシア・インドネシアの丸太出材不足、契約の現地生産未消化、供給量とともに出荷も制約、出荷量は前年同期比で若干減。第4四半期は、7/1以降、サラワク州のティンバールプレミアムの税率引上げによる丸太出材不足の中、駆け込み発注分などが今四半期に遅れて入荷も、塗装型枠合板や薄物・中厚合板などの品薄状態は解消されず、現地生産も丸太不足から単板選別は構造用・生型枠用優先、薄物・中厚合板の不足は続く、今四半期も品薄アイテムの引き合い続き、需要は衰えず、出荷量は、前年同期比で増、平成30年第1四半期は、供給は、ベトナム・中国正月の季節的影響で前年同期比減も、南洋材フロア台板や薄物・中厚合板の根強い需要は継続、供給を上回る需要、第2四半期は、前期より増加、前年同期程度の見通し、雨期明けで現地の丸太出材不足状況回復、遅れていた供給が通常状態に戻り、床暖房用フロア台板や薄物・中厚合板など、国内産合板で容易に代替できないアイテムの底堅い需要に応えてゆくと予想。

11. 国内製造合板供給

平成29年第3四半期実績は、堅調な住宅着工、国内合板工場のフル稼働、輸入合板の減少傾向、産地違法伐採対策等環境問題の影響、フロア台板用国産材合板の需要の増大、国産材合板の生産能力・

効率のアップ等で前年同期比増。第4四半期は、前年同期比増、平成30年第1四半期及び第2四半期は、前年同期比増加の見通し。

「中央国有林材供給調整検討委員会」概要

林野庁は、平成29年12月7日(木曜日)、「平成29年度中央国有林材供給調整検討委員会」を開催し、「国有林材の安定的な供給」について検討した。

当検討委員会は、森林管理局の管轄区域を超える広域的な供給ニーズにも的確に対応していくため、林業・木材産業関係者等から知見や意見をいただくという趣旨で開催されるもの。概要は、以下のとおり。

「委員会の検討結果」

全体として不足感があったが、今後は解消の方向に進む見込みであり、現時点で森林管理局の管轄区域を越えた緊急の供給調整を行う必要はない。ただし、地域や品目により需給バランスの崩れ、価格の統伸が見られること等から、引き続き注視する必要がある。

「主な意見」

・国産材は、10月の長雨の影響等による原木の品薄感があり、一部地域で価格上昇が見られる。特に、スギ柱材、ヒノキ土台取りの価格が高くなっており、今後の出材と価格の動向等に十分留意すべき。

・原木供給は回復しつつあるが、住宅着工、バイオマス発電、輸出など多様な需要に対応できるよう確実な出材が求められる。安定的な供給が出来ないと

国産材離れを引き起こし、価格の暴落もありえる。

・バイオマス発電施設の増加に伴う原木の需給については大きな問題なく、原木輸出とともに国産材価格の下支えの役割を發揮している。

・A材（特に大径化した丸太）の使用分野を拡大する必要性がある。

・合板工場では、地域によっては原木が不足する状況にあり、広域での流通等に対応する必要がある。

・アメリカへのフェンス、デッキ材向けの輸出の動きが顕著になっている。今後の動向に十分留意すべき。

・トラック運転手の確保、伐出作業員の育成、伐採意欲を持った林業経営の確立などの対策を要望する。

### ■林野庁平成30年1月人事異動概要（敬称略）

・（退職）瀬戸宣久（林政課情報分析官）、鶴岡重幸（東京神奈川署長、測上和之（北海道局長））

・東京神奈川署長 清水俊二（沖繩署長）

・北海道局長 新島俊哉（中部局長）

・中部局長 宮沢俊輔（木材産業課長）

・木材産業課長 猪島康浩（治山課長）

・治山課長 大政康史（九州局森林整備部長）

・研究指導課長 森谷克彦（四国局森林整備部長）

・東北局森林整備部長 小林重善（磐城署長）

・四国局森林整備部長 松本寛喜（森林総研部長）

・九州局森林整備部長 松葉瀬裕之（東北局森林整備部長）

・磐城署長 橋爪一彰（林野庁企画課補佐）。

### ■第40回茨城県木材まつり表彰式 1月12日（株）茨城木材相互市場で開催

（株）茨城木材相互市場（茨城県水戸市、打越芳男社長）の新春初市が1月12日（金）に開催され、併せて、第40回茨城県木材まつり表彰式（茨城県木材協同組合連合会主催）が行われた。

来賓として、茨城森林管理署下平敦署長、茨城県農林水産部水越健夫次長兼林政課長、茨城県林業協会の石川多聞理事、茨城県木材協同組合連合会の生井邦彦理事長、地元銀行関係者ほか来賓等多数が出席した。全市連からは小合専務が出席した。

式典の開会に当たり打越芳男社長は、「日本経済は、イザナギ景気以来の好況で、日経平均株価指数は、25年ぶりの高水準とのことだが、肌感覚では、まだ厳しい。とはいえ、当社は、秋までの住宅着工の好調を受け、取扱数量、価格とも安定し、売り上げは、対前年比微増となった。自給率50%を目標に、県内では協議会も立ち上げられ、関係業界が連携して県産材需要拡大への体制もでき、社内の基盤整備進んだ。更に、昨秋の県産材祭りの受賞者にお祝い申し上げる」等挨拶した。

来賓の下平敦茨城森林管理署長の挨拶の他、水越健夫茨城県農林水産部次長兼林政課長、石川多聞県茨城林業協会理事長及び茨城県木材協同組合連合会生井邦彦理事長から祝辞が述べられた。

昨年11月14日に行われた茨城県木材まつりの表彰状及び感謝状受賞者（製材品）

は、次のとおり。  
▽農林水産大臣賞（下地用）（有）皆川製材所（常陸太田市）▽林野庁長官賞（造作用）（有）川井商店（大子町）▽関東森林管理局長賞（造作用）（株）林産（常陸大宮市）  
▽茨城県知事賞（造作用）多加良木材（常陸太田市）▽茨城県農林水産部長賞（構造用）（有）皆川材木店（常陸大宮市）  
▽全木連会長賞（下地用）（有）渡辺製材所（笠間市）▽全市連会長賞（下地用）（有）森嶋林業（常陸太宮市）  
初市のセリには、多くの買方様が参加し、構造物から造作材まで活発に買われ



（初市の様子）



（表彰式の様子）

### 雑記帳

今年の干支は、「犬」である。ある調査によれば、国内の犬飼育頭数は、約990万頭程度と推定されており、犬は日本人の生活にとっても馴染んでいる動物である。柴犬等日本在来の6犬種は、天然記念物に指定されており、その素朴・忠実・勇敢といった性質が日本犬らしいとされ、日本犬の体質は、数千年前の犬の姿とほとんど変わっておらず、世界的に見ても、犬そのものの原型を色濃く残していると言われる。犬は人類最古の家畜と言われ、最近の研究では、1万5千年以上前にオオカミから分化し、東アジアにおいて最初に家畜化されたと推定されている。日本列島における、犬の起源は今のところ、不明だが、縄文時代早期の遺跡（約1万年前）から犬（縄文犬）が出土している。縄文時代のイヌの一部は埋葬された状態で出土しており、家族の一員として飼われた犬がいたと考えられる。日本犬を見ると、可愛く、懐かしい気持ちになるのは、日本人と犬との長い歴史あつて故かもしれない。日本犬と同様、古くから日本人の生活に馴染んでいるのが木造軸組構法で、その原形は、堅穴式住居に見られ、柱を立てて桁を支え、その桁を架けて主要な構造としている。縄文時代前期には木材を加工する技術が出現し、継手・仕口など、ほぞ・ほぞ穴を利用した接合方法も用いられるようになったという。数千年にわたって、我々の生活と深く結びついている軸組構法（特に現し構法）についても、日本の貴重な生活文化として、改めて見直したいものである。